

# 種苗会社と連携を

## 耐暑性品種などに注目

大田市場で見本市

種苗会社および関連業者で構成する青果育種研究会（会長 後藤正明・横浜丸中青果会長）では、東京・大田市場で「第170回 品種見本市」（協力 東京青果、東京在原青果）を開催し、種苗会社13社、協力会社3社が出展した。今回のテーマは「タネ屋さん連携しよう」。温暖化が進み、農産物全般がますます栽培しにくくなる中耐暑性を強化するなど優良な品種が次々と開発されている。そしてその特性を活かすためにも、流通業者と種苗会社との連携を促した。

当日は後藤会長、協力会社を代表して川田光太・東京青果社長が挨拶。さらに出展全社がシヨートスピーチし、展示品種や提供サービスの特色を訴えた。

注目の品種の一例を挙げると、三好アグリテック（山梨県北杜市）の白いサツマイモ「きみまるこ」。同社ではイチゴ、サツマイモ、ワサビなどを手掛け、これまでも

白イチゴ「初恋の香り」などを開発してきた。「きみまるこ」は皮の白さとともに、加熱すると果肉は卵の黄身のようにきれいな黄色となり、冷めても褐変が目立たない。まろやかな口あたりが特徴で、焼き芋、加工用にも適する。紅系品種と紅白で並べると「縁起が良い」と好評。昨年9月の発売以来SNS映えはもろろん、テレビに数多く取上げられ、ふるさと納税の返礼品にも活用されているという。

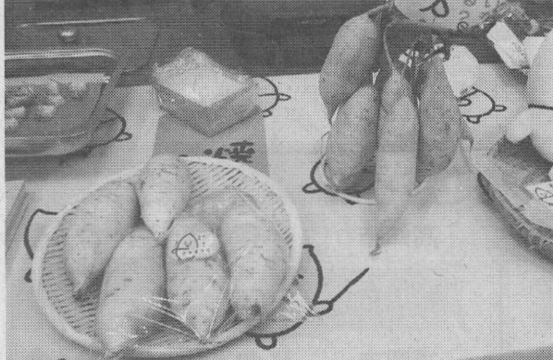
また、ナント種苗（奈良県橿原市）の黄色系スイカ「スイナップル」は、「業界初！ 甘酸っぱいスイカ！」がキャッチコピー。同社開発で定評のある「金色羅王」の系統で、酸味のある、さわやかな味わいの新ジャンル。糖度は14度前後と高く安定し、しかもクエン酸含量は赤肉系品種の約3倍。甘味と酸味のバランスが良い。まだ市場には出回っておらず、来年1月からサンプル種子を限定1万粒配布する予定だという。

また、タキイ種苗（京都市）の温暖化に対応した暑さ対策レタス「ヒートガイ」、サナテックシード（東京都港区）の

「おいしさとサイスを両立させた夢のような」スイートコーン「ドルチェドリーム」などが注目を集めた。

出展種苗会社等は次のとおり（出展品目）。

- トキタ種苗（トマト、カボチャ、ケール、ナス、スティックカリフラワー）
- ▽渡辺農事（トマト、エダマメ、ニンジン、小カブ）
- ▽ウィルモランみかど（トマト、ネギ、カボチャ）
- ▽横浜種木（ネギ、ピーマン、パプリカ、メロン等）
- ▽カネコ種苗（トマト、カボチャ、サツマイモ）
- ▽園芸植物育種研究所（トマト、カボチャ、ピーマン）
- ▽キユウリ、レタス、ピーマン、スナック野菜）
- ▽萩原農場（スイカ、メロン）
- ▽サカタのタネ（トマト、ハクサイ、キャベツ）
- ▽ナント種苗（スイカ、カボチャ）



（写真上）大田市場はじめ多くの青果流通業者が参加した第170回品種見本市（中）三好アグリテックの白いサツマイモ「きみまるこ」（下）ナント種苗のスイカ「スイナップル」の試食は大人気

そのほか資材関係では住友ベークライトが青果物鮮度保持フィルム「Pープラス」、ヤマノが青果物包装機器を、また大田市場青果仲卸の大治は、卸売市場を活用した有機野菜の学校給食納入システムをPRした。